2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
134041111	教育実習A	山田陽平・小野憲一			2	選択	4前期

科目の概要

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。 一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。
DP2「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献することができる。」およびDP3「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる。」を備えた家庭科教員となるためにも、この科目に真摯に向き合ってほしい。
本学では、高等学校の免許のみ取得する者は、教育実習Ａ（２単位）を履修するよう定めている。

学修内容	到達目標
① 生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握する。 ② 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録する。 ③ 教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制を学ぶ。 ④ 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担う。 ⑤ 学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践する。 ⑥ 学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用する。 ⑦ 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解する。 ⑧ 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わる。	① 生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ② 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。 ③ 教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制を理解している。 ④ 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ⑤ 学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 ⑥ 学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 ⑦ 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 ⑧ 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わることができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	教師から指示されなくても、自ら進んで授業の予習・復習をすることができる。
	働きかけ力	
	実行力	強い意志を持ち、将来の目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題を明らかにするために情報収集や分析ができる。
	計画力	
	創造力	固定概念に捉われずいろいろな方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	自分で調べた内容を的確な文章で表現したり、他人にわかりやすく発表できる。
	傾聴力	相槌や共感を示しながら、相手の話を素直に聞くことができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	欠席、遅刻、私語、居眠りなどせず、授業が円滑に進むよう規律を守ることができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

テキスト：「教育実習の手引」（愛知学泉大学）を配布する。

他科目との関連、資格との関連

「教育実習A」は教職に関する科目であり，3年次までに学修した全ての科目を実践する場となる。事前・事後指導については、「教育実習指導」として、別に１単位設けられている。後期の「教職実践演習」で実習での学びを振り返る。
高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得するために履修する必要がある。

学修上の助言	受講生とのルール
生身の生徒に実際に教えることを通して、教員としての能力・適性についての自覚を得ることができるまたとない貴重な機会なので、有効に生かしてほしい。 これまでに学んだ専門知識・技能がすべて試される。	欠席・遅刻・早退は厳禁である。実習期間中の就職活動は禁止である。 毎日の実習日誌や学習指導案など、実習校での提出物の期限を厳守すること。 実習校や生徒の情報をSNS等で発信しないこと。 教職員や生徒との個人的な連絡先の交換は行わないこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①		⑥		
				②		⑦		
				③		⑧		
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①		⑥		
				②		⑦		
				③		⑧		
				④				
				⑤				
		レポート	0	①		⑥		
				②		⑦		
				③		⑧		
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓	⑥	✓	各校長による成績評価を最大限尊重し、実習日誌や研究授業指導案やレポートなどを見て、大学において総合的に評価する。
				②	✓	⑦	✓	
				③	✓	⑧	✓	
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	⑥	✓	（主体性）・教師から指示されなくても、自ら進んで授業の予習・復習をすることができるか。 （実行力）・強い意志を持ち、将来の目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができるか。 （課題発見力）・課題を明らかにするために情報収集や分析ができるか。 （創造力）・固定概念に捉われずいろいろな方向から考えることができるか。 （発信力）・自分で調べた内容を的確な文章で表現したり、他人にわかりやすく発表できるか。 （傾聴力）・相槌や共感を示しながら、相手の話を素直に聞くことができるか。 （規律性）・欠席、遅刻、私語、居眠りなどせず、授業が円滑に進むよう規律を守ることができるか。
				②	✓	⑦	✓	
				③	✓	⑧	✓	
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
実習校の校長による成績評価が優であること。 それを最大限尊重し、実習日誌や研究授業指導案やレポートなどを見て、大学において総合的に判断する。	実習校の校長による成績評価が良であること。 それを最大限尊重し、実習日誌や研究授業指導案やレポートなどを見て、大学において総合的に判断する。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1～30	実習校の定める実習計画に則って実施される。 一般的には、実習の始まる１～２週間ほど前に、実習校に召集され、事前指導を受ける。 2週間にわたる実習期間中は、校長・教頭の指導講話に始まり、観察→参加→実習という形で順次進行し、最後に研究授業で締めくくられる。 また、学習指導のみならず、特別活動・生徒指導・総合的な探究の時間の指導なども随時行われる。	実習 ICTツールは実習校のルールに従って活用する。	実習校において支障なく最低限のことができる。	毎日が予習・復習の連続である。 予習①教育実習期間に入る前に模擬授業などの準備を行う。 予習②当日の業務内容に必要なことは全て前日までに準備する。 復習①各日の課題は記録し，復習に努める。 復習②教育実習後に不足な点をリストアップし，補習する。	999	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
134041112	教育実習B	山田陽平・小野憲一			4	選択	4前期

科目の概要

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。 一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。
DP2「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献することができる。」およびDP3「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる。」を備えた家庭科教員となるためにも、この科目に真摯に向き合ってほしい。
本学では、中学校と高等学校の両方の免許、あるいは中学の免許のみ取得する者は、教育実習Ｂ（４単位）を履修するよう定めている。

学修内容	到達目標
① 生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握する。 ② 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録する。 ③ 教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制を学ぶ。 ④ 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担う。 ⑤ 学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践する。 ⑥ 学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用する。 ⑦ 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解する。 ⑧ 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わる。	① 生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ② 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。 ③ 教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制を理解している。 ④ 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ⑤ 学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 ⑥ 学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 ⑦ 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 ⑧ 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わることができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	教師から指示されなくても、自ら進んで授業の予習・復習をすることができる。
	働きかけ力	
	実行力	強い意志を持ち、将来の目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題を明らかにするために情報収集や分析ができる。
	計画力	
	創造力	固定概念に捉われずいろいろな方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	自分で調べた内容を的確な文章で表現したり、他人にわかりやすく発表できる。
	傾聴力	相槌や共感を示しながら、相手の話を素直に聞くことができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	欠席、遅刻、私語、居眠りなどせず、授業が円滑に進むよう規律を守ることができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

テキスト：「教育実習の手引」（愛知学泉大学）を配布する。

他科目との関連、資格との関連

「教育実習B」は教職に関する科目であり，3年次までに学修した全ての科目を実践する場となる。事前・事後指導については、「教育実習指導」として、別に１単位設けられている。後期の「教職実践演習」で実習での学びを振り返る。中学校教諭一種免許状（家庭）を取得するために履修する必要がある。なお本科目の履修により、高等学校教諭一種免許状（家庭）もあわせて取得することができる。

学修上の助言	受講生とのルール
生身の生徒に実際に教えることを通して、教員としての能力・適性についての自覚を得ることができるまたとない貴重な機会なので、有効に生かしてほしい。 これまでに学んだ専門知識・技能がすべて試される。	欠席・遅刻・早退は厳禁である。実習期間中の就職活動は禁止である。 毎日の実習日誌や学習指導案など、実習校での提出物の期限を厳守すること。 実習校や生徒の情報をSNS等で発信しないこと。 教職員や生徒との個人的な連絡先の交換は行わないこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①		⑥		
				②		⑦		
				③		⑧		
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①		⑥		
				②		⑦		
				③		⑧		
				④				
				⑤				
		レポート	0	①		⑥		
				②		⑦		
				③		⑧		
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓	⑥	✓	各校長による成績評価を最大限尊重し、実習日誌や研究授業指導案やレポートなどを見て、大学において総合的に評価する。
				②	✓	⑦	✓	
				③	✓	⑧	✓	
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	⑥	✓	（主体性）・教師から指示されなくても、自ら進んで授業の予習・復習をすることができるか。 （実行力）・強い意志を持ち、将来の目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができるか。 （課題発見力）・課題を明らかにするために情報収集や分析ができるか。 （創造力）・固定概念に捉われずいろいろな方向から考えることができるか。 （発信力）・自分で調べた内容を的確な文章で表現したり、他人にわかりやすく発表できるか。 （傾聴力）・相槌や共感を示しながら、相手の話を素直に聞くことができるか。 （規律性）・欠席、遅刻、私語、居眠りなどせず、授業が円滑に進むよう規律を守ることができるか。
				②	✓	⑦	✓	
				③	✓	⑧	✓	
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
実習校の校長による成績評価が優であること。 それを最大限尊重し、実習日誌や研究授業指導案やレポートなどを見て、大学において総合的に判断する。	実習校の校長による成績評価が良であること。 それを最大限尊重し、実習日誌や研究授業指導案やレポートなどを見て、大学において総合的に判断する。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1～30	実習校の定める実習計画に則って実施される。 一般的には、実習の始まる１～２週間ほど前に、実習校に召集され、事前指導を受ける。 ３週間にわたる実習期間中は、校長・教頭の指導講話に始まり、観察→参加→実習という形で順次進行し、最後に研究授業で締めくくられる。 また、学習指導のみならず、特別活動・生徒指導・総合的な探究の時間の指導なども随時行われる。	実習 ICTツールは実習校のルールに従って活用する。	実習校において支障なく最低限のことができる。	毎日が予習・復習の連続である。 予習①教育実習期間に入る前に模擬授業などの準備を行う。 予習②当日の業務内容に必要なことは全て前日までに準備する。 復習①各日の課題は記録し，復習に努める。 復習②教育実習後に不足な点をリストアップし，補習する。	999	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力